

2. 上部架構より発生する  $M$ ,  $Q$

a. 地中梁が取り付く方向は、 $M$ ,  $Q$  共、地中梁に負担とする。

b. 地中梁がない方向は、 $M$  は基礎負担とし、且つ杭の付加軸力として考慮する。

・  $M$  は基礎負担とし、且つ杭の付加軸力として考慮する。

・  $Q$  は、鉛直時・積雪時については、柱脚・地中梁に取り付く土間コンクリートにて拘束とする。（土間コンと躯体は縁を切らずに施工）

（上記荷重時の  $Q$  は、おおむね左右の支点の反力が釣り合う状態であり、

且つ、土間コン下の摩擦力にても拘束効果があると考えられる。）

また、地震時・風荷重時については、より安全を考慮して  $M$ ,  $Q$  共、基礎負担とし且つ、杭の付加軸力として考慮する。

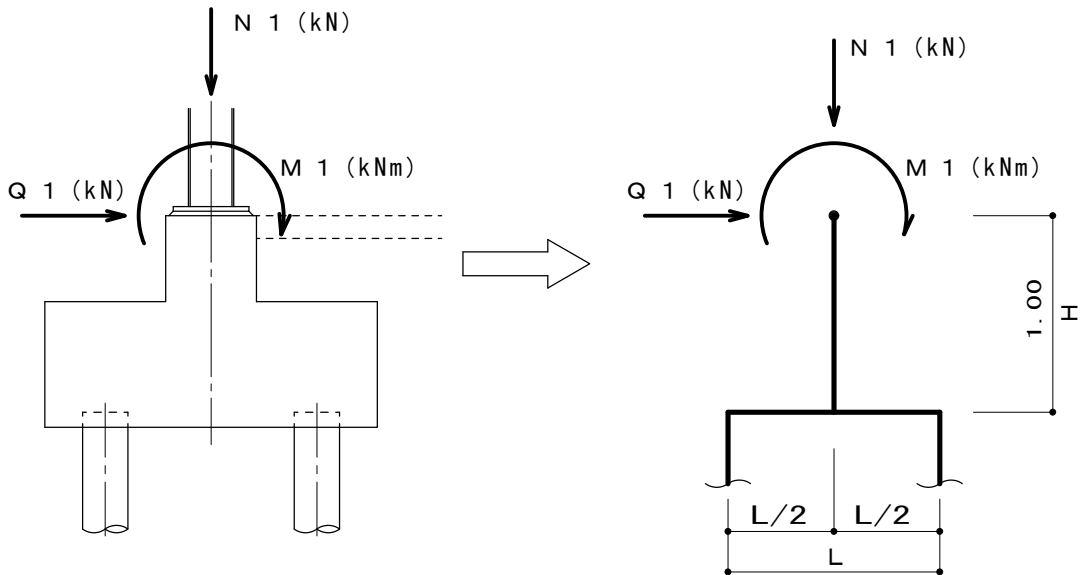
3. 杭頭部に発生する曲げ戻しモーメント

a. 地中梁が取り付く方向は、地中梁に負担とする。

（但し、鉛直時・積雪時については、上記 2 - b 同様の理由により杭に水平力は発生しないと考えられる。）

b. 地中梁がない方向は、基礎負担とし、且つ杭の付加軸力として考慮する。

- ・ 地中梁のない方向における基礎負担の概略的なモデル化



#### 上部構造部分からの応力

杭頭曲げ戻し M による応力

